

平成26年度第2回 平塚市環境審議会の概要

日 時 平成26年11月11日(火) 10時00分から12時00分

場 所 本館3階 303会議室

出席者 室田会長、堀副会長、糸原委員、小川委員、鈴木委員、杉山委員、松原委員、野口委員、石田委員、伊藤委員、服部委員、内山委員
〈事務局〉環境部長、環境政策課長ほか

議 題

- (1) 平塚市地球温暖化対策実行計画関連事業の平成25年度の実施状況について
- (2) 平塚市環境基本計画関連事業の平成25年度実施状況の点検について
- (3) 平塚市環境基本計画関連事業の平成26年度上半期の実施状況について
- (4) 平塚市新エネルギービジョンの取り扱いについて

会議の概要

1 開会

2 委嘱式

3 議題

- (1) 平塚市地球温暖化対策実行計画関連事業の平成25年度の実施状況について

○会長

議題(1)「平塚市地球温暖化対策実行計画関連事業の平成25年度の実施状況」(資料1-1、1-2)について事務局から説明を。

◇事務局

資料1-1「平塚市地球温暖化対策実行計画(平成24年2月策定)に基づく二酸化炭素排出量推計」により説明。

資料1-2「平塚市地球温暖化対策実行計画 平成25年度実施状況」により説明。

○会長

ただ今事務局から説明いただいた内容について、御質問や御意見はあるか。

○委員

平塚市域の二酸化炭素排出の削減目標は、平成2年度の二酸化炭素排出量と比較して平成32年度までに25パーセント削減するとある。現状では達成が難しいと思われるが、これを達成するために具体策はあるのか。部門ごとに削減数値目標を掲げ、具体策を定めてはどうか。

○会長

産業部門では排出量を減らしているのに、民生家庭部門と民生業務部門では増えている。この辺の理由は何か。

◇事務局

部門別に見ると、民生家庭部門、民生業務部門での二酸化炭素排出量が増加している。電気の使用量増加や乗用車の登録台数の増加が人口の増加を大きく上回っていることから、家庭がそれだけ消費やサービスを求めてきたためと思われる。まずは、普段の生活の中で、

節約を図っていただくことが大切である。これまでも生活の中で省エネルギーや省資源に取り組む「ひらつかCO2CO2（コツコツ）プラン」の取組みを呼びかけてきており、取組みの参加者が増えてきている。

排出量25パーセント削減目標は、当時の政府が掲げた目標で、平塚市域の二酸化炭素排出の削減目標も、この目標値に合わせている。東日本大震災後、原子力発電が停止した影響で国の削減目標が見直されるかわからない状況下で、市としては国が掲げた目標を目指すべきと考え、25パーセント削減という目標を掲げている。ただし昨年、環境省は削減目標を見直し、基準年を平成2年から平成17年に変えた中で削減目標を出している。これは、原子力発電による削減効果を含まないものなので、これまでの削減目標より低くなっている。

本市の削減目標の見直しは、今後検討していかなければならないと考えている。

産業分門については、設備が更新されることによって省エネ化などにより二酸化炭素排出量が減っている部分が多い。事業場の撤退もある中で、大きな削減になっている。

民生業務部門については、サービス業の事業所が増えていくとの予測の中で排出量削減をしていくことを計画の中に位置付けている。

民生家庭部門については、テレビやエアコンなどの家電が昔に比べて増えている。その中で排出量を削減しなければならないということを計画で掲げている。これは基本的な施策を掲げているものなので、具体的な数値目標を掲げるのは難しい。

○委員

排出量削減の取組みに対して、数値目標を決めるのはハードルが高いということか。

これは提案ですが、家庭や企業の取組みを発表する場や地球温暖化対策の普及啓発をする場があればよい。

ごみ減量化にも、数値を掲げて取り組んでいただきたい。バイオマス発電など、コストが高いかもしれないものもあるが、家庭ごみの水切りや分別など、できるところから見える形でやっていただきたい。

◇事務局

家庭ごみについては、ごみ減量化推進員会で、水切りや分別の徹底、減量化等について啓発を行っていただいている。今、委員から御要望があったので改めてお願いしたい。

廃棄物の減量については、一般廃棄物処理基本計画や廃棄物の広域処理化の中で行っており、具体的には、剪定枝の再資源化処理が来年度に始まる予定である。

○委員

LEDの普及や冷蔵庫の省エネルギー性能向上など、家電の省エネルギー化が進んでいる。

普及率がどれくらいなら二酸化炭素排出削減量はいくらになるかなど、家庭の省エネルギー目標の数値化をして欲しい。

平塚市の道路等で、信号や防犯灯もLED化が進んでいるが、省エネルギー化が今後見込まれる総量はどれくらいなのか。

○事務局

計画の中に、太陽光発電システムを導入した場合やクリーンエネルギー自動車に乗り換えた場合にはどれ位の二酸化炭素排出削減量になるか掲載している。LED照明器具も、価格が下がっているので普及が進んでいる。ご家庭に配布させていただいている「ひらつかCO2CO2（コツコツ）プラン」の中でも、LEDに交換した場合の二酸化炭素や電気料金の削減効果をお示ししているので取組みをお願いしたい。

防犯灯は、照度の基準がないため、LED化が進んでいる。今年度、市が所有している防犯灯についてはリースによりLED化が進んでいるが、道路の照明については明るさの基準があるので、LED化できない部分がある。

(2) 平塚市環境基本計画関連事業の平成25年度実施状況の点検結果について

○会長

議題(2) 平塚市環境基本計画関連事業の平成25年度実施状況の点検結果(資料2)について、事務局から説明を。

◇事務局

資料2「平塚市環境基本計画(改訂版)の進捗状況に係る点検結果」により説明。

○会長

ただいま事務局から説明のあった件について、内容に追加・訂正等があるか審議をお願いしたい。この点検結果は、「ひらつかの環境」という年次報告書に載せられる。

○委員

ここで述べるのはどうかと思うが、資料2の2(1) 幼稚園・小中学校などにおける環境教育の充実と(4) 里山の保全・再生とふれあいの推進の項目があるが、最終的にどのような姿にするのが望ましいかを考えると、市民が生活の中で自然と触れ合っただけで子供たちが生き生きとしているのが望ましいと思う。湘南平の遊歩道が整備されていて、以前は幼稚園生たちが来ているのを見かけたが、今は見かけない。多くの市民がもっと気軽に市内の自然と共生していくことが大事だと思う。ハイキングコースにお年寄りを連れて行くことがあるが、大きな木が倒れていることがある。通れるようにしてくれと頼んでも、すぐに対応してもらえないことがあった。

○会長

今のお話を、ここでご審議いただいている点検結果にどう盛り込んだらよいか。資料2の2(1)に「今後も、体験的な学びを通して、将来の環境を担う子どもたちが自ら考え、率先して行動できるような事業を継続的に展開していただきたい。」とあるが、これでは足りないか。

○委員

土屋の里山保全モデル事業では、保育園児が主ですが、年に2,500人以上の人が体験している。小学生も多く来ている。

○委員

自然体験を、毎年必ず学校の行事としてやるように、計画に盛り込んで欲しい。

○委員

土屋の里山には親に連れられて小学生も多く来るし、大学生になってまた来てくれる人もいる。少しずつ浸透していると思う。

○会長

ここにあるとおり「今後も、体験的な学びを通して、将来の環境を担う子どもたちが自ら考え、率先して行動できるような事業を継続的に展開していただきたい。」という文言でいかがでしょうか。

○委員

良いと思う。

○委員

幼稚園や小学校低学年のために、安全上いつも管理されているので大丈夫という環境整備と、安全の保証をして欲しい。

○会長

自然環境の中に連れて行って、絶対に安全だと保証することは難しい。

○委員

自然を守るとは、少しでも手を加えたらそれは自然ではなくなるのか。

○会長

人間が手を加えて守るのが保全である。

○委員

人の手で破壊した自然をどこまで手を加えて保全することが良いことなのか。

○会長

だいまの委員からの話で、ハイキングコースに木が倒れていたとしても、それも自然だから、それを体験すればいいという考え方もある。

ここで審議いただいている点検結果の文言の中に、委員からの意見をどう反映するかについて御意見をいただきたい。

○委員

具体的に言うと、小中学生でも使えるような安全な遊歩道を10カ所位整備して欲しい。何か具体策を盛り込まないとそれだけで終わってしまう。

○委員

ここにはそんなに細かく書けないのでは。

○会長

これについて、他にご意見等あるか。

○委員

「(3) 生物多様性の保全対策の推進」のうち、3-1「鳥獣対策の推進」に当たる部分はどこか。この資料は環境基本計画の各事業の進捗状況を言葉で表されている部分があるが、各計画の項目を見ながらの審議を2時間で行うのは無理があると思う。「動植物の基礎的な調査等」とある部分がこれに当たるのかと思ったが、強引な解釈になってしまうので、「鳥獣対策の推進」について表現を検討された方が良い。

◇事務局

「鳥獣対策の推進」についてももう少し明確になるように盛り込みます。

○会長

「わかば環境ISO」とあるが、どのようなものか。

◇事務局

幼稚園や小中学校で、園児や児童生徒が学校・園での生活の中で省エネルギーや省資源について自分たちで取組みを考えて実行し、効果をチェックするもの。

○委員

チェックリストを作って取組んでいるものだと思うが、具体的にどのようなことをやっているか、説明をいただきたい。

◇事務局

取組みの内容・結果については、毎年報告を出してもらっている。全部で53校・園あるので、代表的なものでよければ、市のホームページで紹介している。ホームページが見

られる環境であれば、ご覧いただきたい。

○会長

委員が先ほどから言っているところは、(4) 里山の保全・再生とふれあいの推進に当たる。

○委員

里山の利用について、子供たちに来てもらえるよう、小学校等に継続して利用を働きかけることが大切である。整備状況も説明しておかないと、もし子供が怪我でもしたら、先生方が保護者から責められる。

○委員

(4) の「市民、団体、大学、地域との連携・協働による里山を利用した様々な体験活動」の部分に、子供も加えたらどうか。

◇事務局

「市民」は、子供から大人、企業も含めた意味。市民大学交流事業には、子供から高齢者まで御参加いただいている。将来を担う子供を対象としたものとしては、夏休みに環境教室を開催しているなど、楽しみながら体験して、ゆくゆくは地球環境を守る意識を持った子供になってもらうための事業を行っている。

○会長

その他意見等あるか。(3) の「生物多様性の保全対策の推進」に「鳥獣対策の推進」に関する点検結果を追記することについて、会長と事務局に御一任いただくということよろしいか。

○各委員

異議なし。

(3) 平塚市環境基本計画関連事業の平成26年度上半期の実施状況について

○会長

議題(3) 平塚市環境基本計画関連事業の平成26年度上半期の実施状況(資料3)について、事務局から説明を。

◇事務局

資料3「平塚市環境基本計画関連事業の平成26年度上半期の実施状況について」(資料3)により説明。

○会長

ただいま事務局から説明のあった件について、御質問や御意見等あるか。

○委員

電気自動車の普及について、市のごみ収集車にも電気自動車の導入推進をしていただきたい。

◇事務局

トラックの電気自動車化はまだ性能実験の段階である。

○委員

日産車体が電気トラックを1台作ったが、コストが高かった。

◇事務局

電気トラックでは走行距離が短くてまだ40キロメートル位しか走れなかったと思う。ごみ収集車は、一日あたりの走行距離が100キロメートル位のため、走行性能や価格面

などの実用性が今後進んでいけばと思う。

○委員

渋田川で、堤防に桜やアジサイを植えて環境整備をしている。不法投棄もあるが、堤防と堤防上の道路は市が管理しているのか。

◇事務局

渋田川の河川管理者は県で、堤防上の道路も県の堤防管理用通路である。市で堤防の法面の占用許可を取り、地元で植栽及び草刈りなどの維持管理をしている。

(4) 平塚市新エネルギービジョンの取り扱いについて

○会長

議題(4)(案)平塚市新エネルギービジョンの統廃合について(答申)について、事務局から説明を。

◇事務局

「(案)平塚市新エネルギービジョンの統廃合について(答申)」により説明。

○会長

ただいま事務局から説明のあった件については、前回の審議会の中で、現行の新エネルギービジョンを地球温暖化対策実行計画に盛り込むということだが、神奈川県スマートエネルギー計画の内容を平塚市にあったものにした上で加えていくということもあったかと思うが。

◇事務局

案の中に「神奈川県を始め他の関係機関とも連携を図り」とある部分がこれに当たるが、もう少し明確にすべきであれば、スマートエネルギー計画にも触れてもよいと思う。

○会長

細かい話になるが、下から2行目に導入策とあるが、何の導入策か。

◇事務局

創エネルギー及び省エネルギーがこれに当たる。畜エネルギーについてもあり得る。

○会長

他に訂正意見等はあるか。細かい点については、事務局と会長で詰めていきたいがよろしいか。

○各委員

異議なし。

○会長

答申書は、後日、私から市長にお渡しする形を取りたい。

議事については以上なので、進行を事務局にお返りする。

◇事務局

今後の予定及び委員の改選について連絡。

閉 会